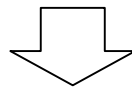


協働事業負担金 課題部門の「地域の課題」（平成 28 年度事業募集）について

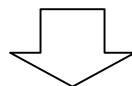
(原案)

課題名 (オリジナル課題名)	課題設定の趣旨
<p>フードバンク活動の支援効率化のためのネットワークの構築</p> <p>(食品ロス削減とその有効活用のためのフードバンク活動における企業・行政・市民活動の連携およびネットワークの構築)</p>	<p>日本では、年間 800 万トンもの食料が無駄に捨てられている一方で、毎年 50～100 人が餓死している。また、その廃棄コストは 2,777 億円と言われている。</p> <p>こうした中で、食品ロスと社会貢献をつなげる仕組みとして注目されているのがフードバンク活動であるが、県内では仕組みが未整備であり、活動団体も独自の手法で行っているため、支援そのものが非効率となっている。</p> <p>そこで、フードバンクを行っているボランティア団体や企業、行政が連携してネットワークを構築し、継続的な支援体制を作る必要がある。</p>



(修正案)

課題名	課題設定の趣旨
<p>フードバンク活動などの食を通じた生活困窮者支援</p>	<p>生活困窮者やひとり親家庭の世帯などにとって、食事提供のニーズは高く、食は経済的・精神的な支えとなる。</p> <p>一方で、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品（食品ロス）が課題となっており、食品の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する「フードバンク」と呼ばれる活動の必要性も高まっている。</p> <p>また、子ども達に無料や格安で食事を提供する「子ども食堂」の活動も、近年注目を集めている。</p> <p>こうした「食と地域」を結びつける活動は、持続可能な社会づくりや地域の活性化にもつながることから、多様な主体の連携による、食を通じた生活困窮者支援が必要である。</p>



(2月17日の審査会懇談会での修正)

課題名	課題設定の趣旨
フードバンク活動などの食を通じた <u>生活支援</u>	<p>生活困窮者やひとり親家庭の世帯などにとって、食事提供のニーズは高く、食は経済的・精神的な支えとなる。</p> <p>一方で、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品（食品ロス）が課題となっており、食品の製造・<u>販売</u>工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する「フードバンク」と呼ばれる活動の必要性も高まっている。</p> <p>また、子ども達に無料・<u>低額</u>で食事を提供する「子ども食堂」の活動も、近年注目を集めている。</p> <p>こうした「食と地域」を結びつける活動は、持続可能な社会づくりや地域の活性化にもつながることから、多様な主体の連携による、食を通じた生活困窮者<u>などへの</u>支援が必要である。</p>